

グループトーク報告

グループトーク 1

グループトーク 1では、「個の楽しみを起点として」各班で意見を出し合いました。

「楽しみ」

- ・小説の世界に熱中する時間・自分の知らないことを知るの楽しい
- ・ふらっと出かけて本を手にとること・「一人の時間」が楽しい（車の中で読むなど）
- ・ネットのピンポイント検索では得られない情報
- ・今まで興味のなかったジャンルの本と出会いがある。
- ・人に会う（司書と）・豊かな気持ちになる・棚を眺めると探している本以外の発見がある
- ・新刊コーナーを見る・思いがけない世界、言葉との出会い など

「アイデア・企画」

- ・図書館が一方向的に知識を押し付けるのではない「参加型」の情報提供
- ・本のおみくじ、しおりコンテスト、〇〇小学校怖いはなし
- ・リーディングトラッカー（一行ずつ読める補助具）による読書バリアフリー・実物展示
- ・本のジャケットがメインの企画・館特有の郷土資料を扱った企画・新旧版読み比べ
- ・隠れ家としての図書館・学校や家以外の居場所・夜の図書館・カフェとコラボ
- ・音楽とコラボ・ボードゲームやってみよう・過去への旅（自分が小さい時の世界）
- ・デザイナーズチェアを置く・座りたくなるような可愛いソファを置く・本と給食のコラボ
- ・本に出てくる知らない食べ物を空想する・悩みを相談・ビブリオトークを行う
- ・お出かけ図書館・出版者、製本社への見学ツアー・おすすめの本スタンプラリー
- ・原画展、作家との交流会・書庫ツアー・本の感想を書き込めて誰でも読める掲示板
- ・眺めるだけでも楽しいコーナーづくり・大人も寝転んだり起きたりしながら読書がしたい
- ・空想の楽しみ（ファンタジーの舞台となっている写真を眺める）・本の帯づくり
- ・近隣小学校の児童おすすめの本の紹介 など



グループトーク2

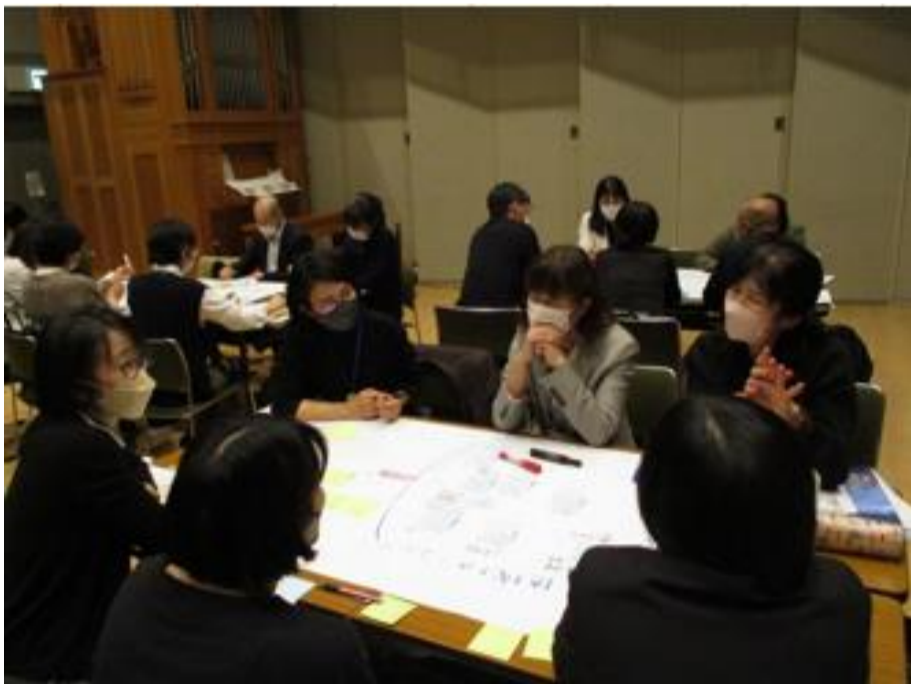
グループトーク2では、「つながる楽しみを起点として」各班で意見を出し合いました。

「つながり」

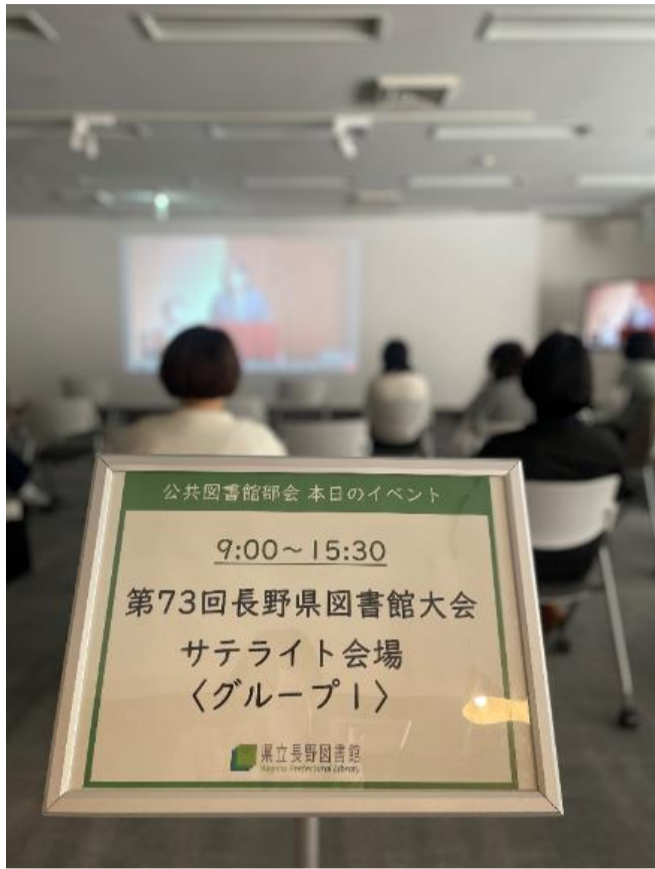
- ・公共図書館と学校図書館のつながりが欲しい・遊びと図書館のつながり
- ・保育園、小学校、中学校、高校、大学、公共図書館とのつながり
- ・校内の先生とのつながり・本屋さんとのつながり
- ・本と遠い人とのつながり（スポーツ・アウトドア・工業・技術・個人経営者など）
- ・本と近い人とのつながり（本屋さん・図書館利用者など）
- ・地域おこしの方と図書館がつながる・地元の工場、商店とつながる
- ・地元のお店や、カフェ、ベーカリー、手芸手づくりサークルとのコラボ など

「アイデア・企画」

- ・公共図書館に窓口があるといい。学校図書館からどんどん要望を出していきたい
- ・作家さんのファンの集いを行う・月一イベントで読み手の交流会を開く
- ・図書館でキャンプ場（図書館内にテント）・移動図書館（バス）・出張図書館
- ・スーパーに本を置く・ブラックライトおはなし会・図書館サバイバル・温泉旅館に図書館
- ・出前講座・保護猫、犬の譲渡会とのコラボ・「誰でも読み聞かせ」飛び込みOK
- ・公共図書館と学校図書館のコラボ・持ち寄りブックトーク・人気作家とつながる
- ・司書会などの定例情報交換会を行う・実体験が結びつく図書館（生き物・実・名）
- ・図書館お泊り会・図書館結婚式・人物図書館・デジタルデトックスデー・図書館サロン化
- ・準保健室のように居心地のいい図書館・保育士常駐図書館・給食センターとコラボ
- ・サークル、部活の動画を流す・職員室にミニ図書館・移動図書館（ブックマルシェ）
- ・お年寄りと子どもの交流（子どもの頃好きだったこと教えて!）・居場所づくりイベント
- ・一箱古本市・ビブリオバトル・長野県在住の作家とつながる
- ・絵本の世界に出てくる食べ物を飲食店に作ってもらう・先生方とコラボして読み聞かせ
- ・公共図書館だよりを学校にも配布・部活の発表を図書館で行う など



長野会場の様子



グループトーク全体のまとめ

「図書館の楽しみ」という題材で館種の区別なく行いました。題材が「楽しみ」であったせいか、「アマゾンを超える」などのユニークで活発な意見交換がされ、多くの班で熱心に語り合う姿が見られました。メイン・サテライト会場の各会場全てを同時進行でコーディネーターが指揮をとりました。

班ごと模造紙に個人の意見を付箋に記入して貼り付けるワークショップ形式で、マジックで付箋を意見ごと区切ったり、イラストにして見やすくレイアウトした班もありました。コーディネーターが班を指名し、意見共有を行いました。

オンライン開催の課題として、映像や音声途切れる事がありました。

大会終了後には各班の模造紙をロビーや玄関前に貼りだし、参加者全員に共有しました。

アンケート結果では下記のような声が寄せられました

- ・新しい視点いただけしたこと、意気投合できる視点があったこと、充実した討議でした。
- ・館種混合により、つながるためのヒントを得ることができました。発想も拡がりました。
- ・時間が足りなかったが楽しかった。
- ・司会者がとても上手にまとめていただき、楽しいグループトークできました。知らないことを教えていただきました。
- ・さまざまな立場の方がいるからこそ楽しかったです。まさに繋がる楽しさでした。
- ・進行が早く忙しかったです。他地域の様子を伺うことができ良かった。
- ・自由な発想で、という視点のはずだが、現実的な視点で臨むメンバーがいた。現実的な視点なので、次第にお互いの情報交換になったりアイデアを否定したりするなど、狙い通りのグループトークにならなかった。
- ・グループトークが円滑に進むような事務局の工夫は大変参考になった。

※アンケート回答期間 10.28(土)～11.15(水)

※回答者数 137名(松本市音楽文化ホール79名 県立長野図書館58名)

